

失敗体験を繰り返してきた利用者の ストレングスを生かしたナイトケアの試み

医療法人 耕仁会 札幌太田病院 1階 デイナイトケア

○ 畠山美樹（看護師） 後藤幸枝（作業療法士）

はじめに

- ナイトケアの利用者(以下A氏)が通所を継続する中で、「本人の強み」(以下ストレングス)を発揮し、生き生きとした姿が見られるようになった
- 本人の個性を認め、ストレングスを発揮する場を提供できたことが変化の要因と考えられるため報告する

症例紹介A氏

- 30代男性
- 自閉症スペクトラム障害 (ASD)
- 過去の就労において、コミュニケーション不足により、失敗を繰り返し、社会参加できずにいた

経過(1)通所開始当初の様子

A氏

発汗し、緊張していた

私

失敗体験をしないように過保護になっていた



A氏

自発的な発言が増えていった

私

A氏に成長を伝える



A氏

「慣れただけです」と正直に答える

私

戸惑いを感じ、振り返るきっかけ

経過(2) A氏のストレングスに気づく

いつも学んでいる

哲学や歴史に関する
話題に明るい

論理的に語る力

周囲に尊敬される

豊富な知識

興味がある話題は
発語量UP



A氏



豊富な知識と論理的思考がA氏のストレングス

経過(3)具体的なアプローチ

Teacherの役割を
担ってもらおう

豊富な知識を
披露してもらおう

プログラム
SST(ソーシャルスキ
ルトレーニング)
ストリートビューの旅

「知識を発表できる場があるのはうれしい」
とA氏

考察(1) 私自身の変化

A氏



「慣れただけです」

A氏は成長とは認識していない
=もともと持っていたストレンクス

疾患のイメージ

保護的

私



「成長しましたね」

私自身の安心を優先

A氏のストレンクスに気づけなかったことが
今後の支援を検討するきっかけに

考察(2) A氏の変化



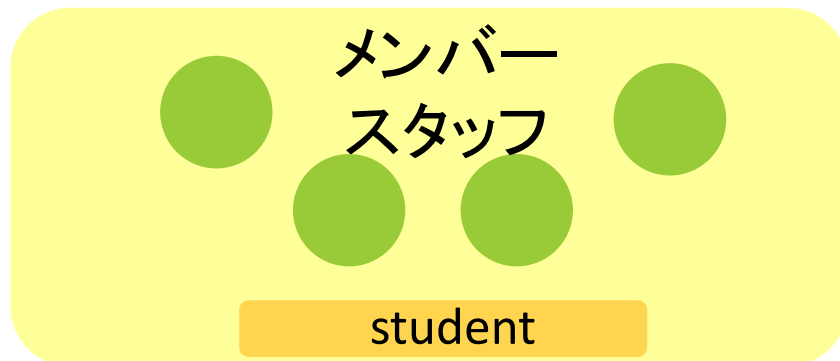
- 生き生きとした姿
- 自己開示を伴う発言

Teacherの役割と
受容的な場によって
ストレンスを
より一層発揮できた

ストレンスを
発揮

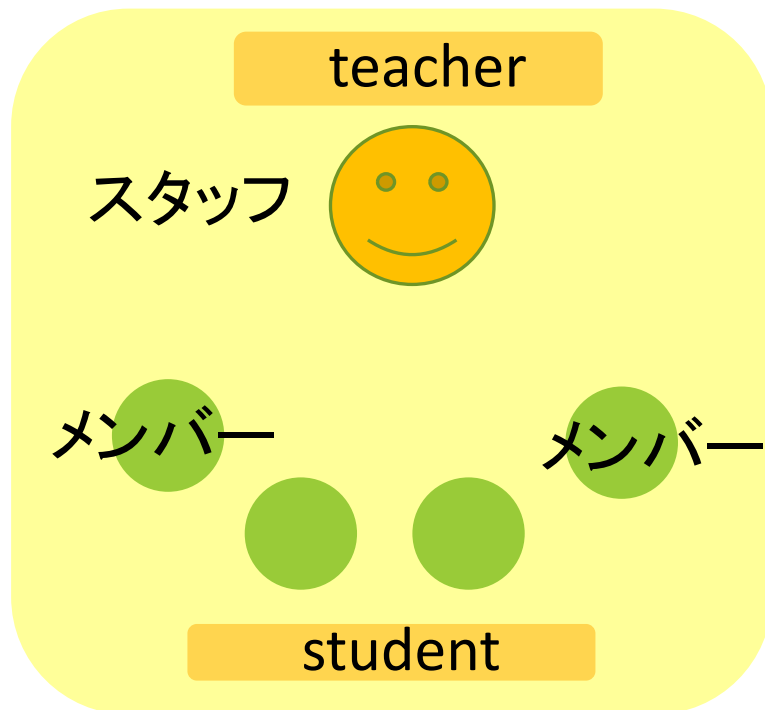


尊敬
高い評価



考察(3) ナイトケアの変化

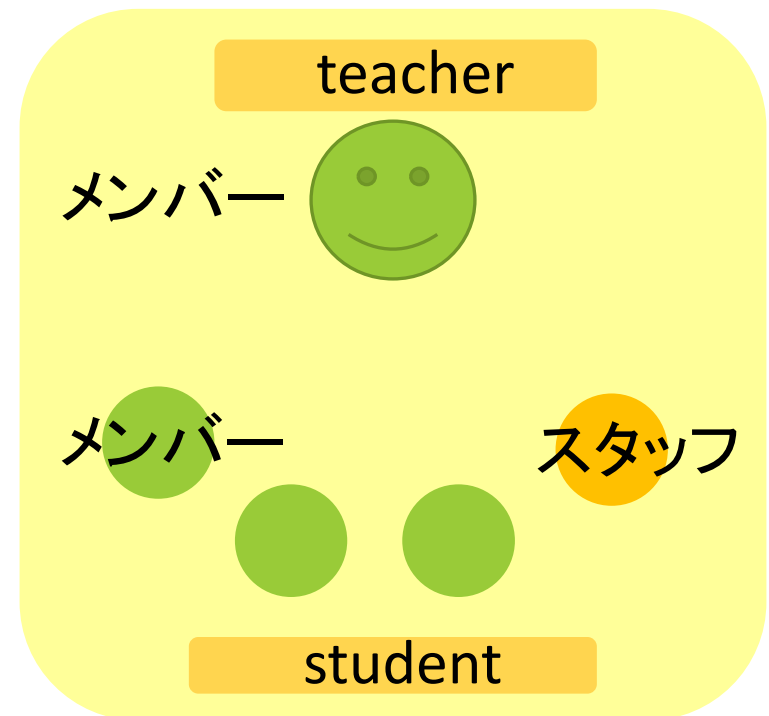
従来



役割の
変化



新しい支援



デイケアでの枠組みを超えたプログラムの取り組み

おわりに

- 精神科デイケアで勤務する看護師にとって重要なのは、本人の主体性に寄り添う支援であると学んだ。支援者の意識よりも、主役は利用者であり、本人のストレングスを引き出す関わりが重要である。
- 今後は、A氏から、社会参加についての思いを伺いながら、自身のストレングスを共有し、ステップアップを目指したい。

ご清聴ありがとうございました